



たかのす

第3種郵便物認可 昭和44年5月14日

■発行所 秋田県北秋田郡鷹巣町役場
 ☎ (0186) 2-1111
 ■編集 総務課秘書係
 ■発行部数 6,600部
 ■毎月1日・15日発行
 ■領価10円 ■郵便番号018-33
 ■印刷所 嵐秋北新聞社

No.224 46・10月1日



秋田—青森間電化

いよいよ、今日から秋田—青森間に待ちに待った電気機関車が走ることになりました。

この電化により、県都秋田市までは、急行で10分から18分短縮され、1時間10分台と、県都もぐっと身近になりました。(関連記事3面に)

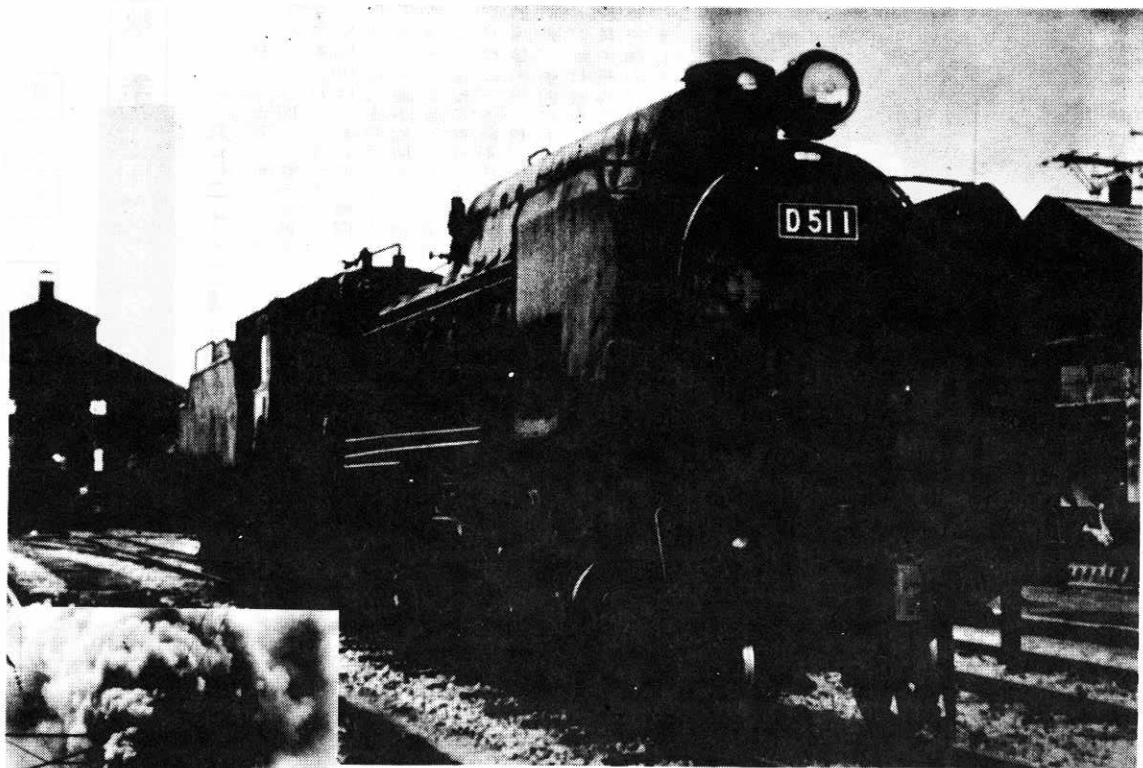
いよいよ今日から秋田—青森間に、県民待望の電気機関車が走ることになりました。明治33年の鷹巣駅開業以来70年間、文化や経済発展のため雨の日も、雪の日も人や物を運んで日夜走り続けてきました。煙機関車は遂にその姿を消すことになったのでござります。この電化には六十億余の巨費が投じられたのでござります。同時にCTC方式(秋田・青森間各駅の信号機や転てつ器を秋田のコントロールセンターで操作する方式)も実施されることになりましたので列車の高速化、保安度の向上等に大きな期待が寄せられており、青森間の開通に伴う時刻改正にはスピードアップや列車の増設が予定されていますのでご期待くださいと存じます。

なお、私共に対しましてご要望やらご指摘がございましたならご遠慮なくお申し出で下さるよう又、温いご支援を心からお願い申し上げる次第でございま

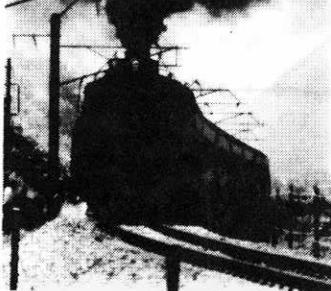
鷹巣駅長
荒川長五郎

電化に寄せて





惜別、蒸気機関車—豪雪と戦い、稲田をつっ走った“D51”の黙々たる巨体には、言しようのない愛着と郷愁すら覚える。



黒煙を吐き、巨体を振るわせ、最後の奉公をするC61蒸気機関車の勇姿。

鉄道誘致については、官民ともにいろいろな比較線をもち出して活発な論議が展開され、熾烈を極めに模様である。奥羽線の北進路線中秋田より国道添い能代に達し、鶴巣に至る路線が正式に決定したのは明治三十六年三月である。

明治二十六年七月、奥羽線北線工事（青森・湯沢間）から着工した南線工事も順次進行し、明治三十八年九月に同年十一月白沢・大館間、三十一年大館・鷹巣間、三十四年十

奥羽線の開通

ら起工、二十七年青森・弘前間、

開通、三十二年碇ヶ関・白沢間、

同年十一月白沢・大館間、三十一年十一月白沢・大館間、三十

四年大館・鷹巣間、三十四年十

月鷹巣能代間、三十五年能

代八郎潟間、同年十月一日八

郎潟・秋田間開通、この間福島

から着工した南線工事も順次

進行し、明治三十八年九月に

待望の全通をみたわけです。

従ってこのときから鉄道で東

京までいけるようになり、新

しい都市の文化も一層勢をま

して当地方にも流れこんでき

たわけです。

その後、ディーゼル化によ

る時間の短縮、昭和二十七年

十月には、急行停車、四十四

年十月一部特急停車、そして

今日からは待望の電化と日進

歩の鉄路の響きを、当町の

发展への鼓動としたいもので

す。

その後、ディーゼル化によ

